

2006 年度全学教育改革に関するアンケート調査

細川 敏幸*, 西森 敏之, 安藤 厚

北海道大学高等教育機能開発総合センター

Results of Questionnaires about New Curriculum for Freshmen in 2006

Toshiyuki Hosokawa**, Toshiyuki Nishimori and Atsushi Ando

Center for Research and Development in Higher Education, Hokkaido University

Abstract — In the year 2006, Hokkaido University introduced a new curriculum and guidelines in the education for freshmen studied with new curriculum at a high school. The high school curriculum decreased the quantity of study to 2/3 compared with before. The guideline shows the standard for grading, using GPA(Grade Point Average) and cap system with which students have upper limit of the number of subjects for each semester. We asked questionnaires to students and professors. The results of the questionnaires for students showed that they chose an elective subject based on a syllabus and the title of it. The ratio of students dissatisfied to subjects in the first semester was less than 10%. The attendance rate is more than 80% in most of the students. The average hours of study at home was around one to two hours in 60% of students. The results of the questionnaires for professors showed that half of them prepared lecture considering the new curriculum. The freshmen look like study harder than before. These results indicated that new curriculum is working well. However the university should familiarize the idea of new curriculum further to all of the students and professors to improve the new education system.

(Revised on 7 May, 2007)

1. はじめに

2006 年度、高校の新カリキュラムによって学んだ学生が入学した。このカリキュラムでは、学習内容が従来のおよそ 3 分の 2 に減少し、特に理系科目の学力低下が危惧された。北海道大学では 3 年前か

らその対策として全学教育のカリキュラム改革を検討し、平成 18 年度新教育課程を実施するとともに、以下のような「単位の実質化」(授業時間外の学習時間の確保, 組織的な履修指導, 履修科目の登録の上限設定など, 学生の主体的な学習を促し, 十分な学習時間を確保するような工夫) の取組みを進めた。

*) 連絡先: 060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 情報教育館 4F 北海道大学・高等教育機能開発総合センター

**) Correspondence: Center for Research and Development in Higher Education, Hokkaido University, North-17 West-8, Kita-ku, Sapporo, Hokkaido, 060-0817, Japan

(1) 成績評価基準の明示と厳格な成績評価

- 成績評価基準の明示：シラバスの「到達目標」「評価の基準と方法」欄の充実
- 成績評価基準の設定：授業科目ごとのガイドラインの作成
- 成績評価結果の公表：授業科目別及び担当教員・クラス別の成績分布を WEB で公表
- 成績評価の妥当性の検討：評価の極端な片寄りの有無について専門部会で検討

(2) GPA の本格利用

- GPA を利用した修学指導の強化
- 履修登録上限設定における特例措置の基準への利用
- 授業料免除、成績優秀者表彰、進級・学科分属の基準等への利用

(3) 1 年次の履修登録上限設定

- 原則として、各学期、文系 21 単位以下、理系 23 単位以下に上限設定
- 「1 単位の授業科目は（授業時間外を含めて）45 時間の学習を必要とする」ことを各学部の規程に明記
- 「単位の実質化」に対応した授業・自習支援策の開発

この改革の影響を知るため、学務部教務課の協力を得て、カリキュラム、GPA、上限設定、WEB 登録等について、学生・教員の意見をアンケート形式で調査した。本稿ではその概要と結果を報告し検討する。

2. アンケート調査の目的

学生アンケートでは、学生が今回のカリキュラム改革をどのように受けとめているかを知り、カリキュラムの目標と学生の受けとめ方との違いを調べることが目的とした。また、学習状況についても項目を設けた。最後に、今後のカリキュラム改善の参考とするため、自由記述欄を用意した。

教員アンケートでは、「単位の実質化」に関わる改革を重点に、教員から見た学生の変化や教育改革の影響ならびにそれらについての意見を集めることを目的とした。

3. アンケートの対象と調査用紙の配布および回収の方法

学生アンケートの対象は、平成 18 年 10 月現在において 1 年次に在籍するすべての北大生で、アンケート用紙は 2 学期の履修登録確認の機会に対象者全員に配布した。質問項目は資料 1 の通りである。対象学生総数 2,717 名に対し回収数 333 通で、回収率は約 12% とあまり高くはなかったが、その分布は各学部に一様に広がっており、データとしての信頼性はある程度保持されているものと推測される(表 1)。

教員アンケートの対象は 2006 年度 1 学期に全学教育を担当した全専任教員 537 名である。アンケート用紙は学内便で配布・回収した。質問項目は資料 2 の通りである。回収数 261 通、回収率はおよそ 49% であった。

4. 結果の概要

4.1 学生

系による差異を確かめるために、全体の数値と併せて、文系・理系、さらに理系を医学系とそれ以外に分けて表示した(表 1)。しかし、これらの分類によって大きく変わることはなかったので全体の数値を対象に述べる。

まず、選択科目を決定した理由のほとんどは、講義題目名、シラバスを見たか、「おもしろそう」だからである。今回受講者数が 3 割減少した一般教育演習(20 名以下の少人数教育)を受講しなかった理由は、「魅力がない」あるいは「必要な単位数は取った」からであった。他方「一般教育演習以外で上限設定のためにあきらめた科目はありますか？」との質問には 7 割を超える学生が「ない」と答えている。登録の際に選択の余地を広げるため、登録科目と「予備科目」を入れ替える制度が設定されたが、9 割近くが知っていたが利用はしていない。

1 学期の授業内容に不満足な学生は 1 割未満である。

授業のおよその出席率は、9 割以上の学生が 80%

表 1. 学生アンケートの結果

設問	分類 【回答数】	総合 333	文系 100	理系 233	医系 47	医系以外の理系 186
選択科目を決定した理由	授業科目・講義題目名を見て	63%	56%	66%	70%	65%
	シラバスを見て	83%	94%	79%	85%	77%
	友人と相談して	22%	18%	23%	36%	20%
	先輩からの情報をもとに	6%	6%	6%	13%	5%
	専門に関係するから	18%	25%	15%	11%	16%
	専門に関係ないが面白そうだから	50%	44%	52%	51%	52%
一般教育演習を受講しなかった理由	抽選に外れた	7%	8%	6%	2%	8%
	魅力がなかった	25%	35%	21%	13%	23%
	必要な単位数は、すでにとった	20%	11%	24%	40%	20%
	上限設定のため、あきらめた	6%	4%	7%	2%	8%
	上限設定外の科目で進級・卒業要件に含まれるなら受講したい	7%	3%	9%	4%	10%
	一般教育演習以外で、上限設定のため仕方なしに履修をあきらめた科目はなかった	76%	81%	73%	72%	73%
予備科目を5月/11月に他の登録科目と入替えてきる制度を	知らなかった	7%	6%	7%	9%	7%
	知っていて利用しなかった	86%	89%	85%	85%	85%
	利用した	7%	5%	8%	7%	8%
第1学期の授業内容に	たいへん満足	3%	5%	2%	0%	3%
	満足	52%	52%	52%	57%	51%
	やや不満	36%	33%	37%	39%	37%
	不満	9%	10%	8%	4%	9%
授業のおよその出席率は	40% 未満	1%	2%	0%	0%	0%
	60%	2%	3%	2%	0%	3%
	80%	31%	38%	28%	28%	28%
	100%	66%	57%	70%	72%	69%
平日1日あたりのおよその自習時間は	30分未満	28%	22%	30%	21%	32%
	1時間	42%	48%	40%	51%	37%
	2時間	22%	18%	24%	17%	26%
	3時間	5%	8%	4%	9%	3%
	4時間以上	2%	4%	2%	2%	2%
平日の自習の場所は主に(その他:北部食堂・自習室)	図書館	63%	73%	59%	57%	60%
	空き教室	11%	14%	10%	11%	10%
	自宅(下宿)	73%	77%	72%	83%	69%
履修科目の成績評価の結果に	たいへん満足	8%	11%	6%	2%	8%
	満足	49%	44%	51%	51%	51%
	やや不満	33%	33%	34%	38%	32%
	不満	10%	11%	9%	9%	10%
登録確定後に履修放棄して「不可」評価となった科目はなかった		91%	85%	94%	98%	93%
GPAの高い・低いを	気にしない	21%	26%	19%	26%	17%
	気にしている	79%	74%	81%	74%	83%
第2学期の履修登録の上 限設定単位数(特例措置等を含む)	少なすぎる	12%	14%	11%	9%	12%
	ちょうどよい	54%	49%	56%	55%	56%
	多すぎる(余裕があった)	34%	37%	33%	36%	32%

以上出席と回答している。ところが、1日の自習時間は約6割の学生が1～2時間で、2～3割の学生は30分以下である。平日の自習場所には、図書館と空き教室が多く使われている。

1学期の成績評価には4割が不満を持っている。履修放棄で不可になった科目がある学生は1割程度で、従来よりも履修放棄が少なくなっているようである。GPAの数値は8割が気にしている。一方で2学期の上限単位数については、少なすぎると答えた学生は1割にすぎない。

4.2 教員

担当科目ごとの数を表2に示した。

新入生の学力については35%が何らかの学力低下を感じている(表3)。特に実験の担当者がそう感じている割合が47%と高い。およそ半分の教員は「単位の実質化」に配慮し予習復習が必要な授業を展開したが、総合科目、実験などは、それぞれ21%、29%と低い(表4)。

学生の授業態度が昨年より熱心だと感じたのは23%にとどまる(表5)。学生が昨年より予習復習に時間をかけていると感じたのは18%だが、初めて全学教育を担当した教員で熱心に予習復習をしていると感じた割合を加えると全体の3割に及ぶ(表6)。学習成果についての比率もほぼ同じ割合である(表7)。

前年度のGPA値を意識して成績をつけた教員は36%であった(表8)。学生が授業の内容を見てから履修を決められるような制度を望む声に対して、履修者の確定が2回目の授業よりも後になっても支障はないかとの間についての賛否は、ほぼ同率である(表9)。一般教育演習で履修者数が極端に少ない場合の対処については、6割の教員が開講中止に賛成している。開講中止の最少人数については5名を超える意見が多い(表10)。

5. 考察

5.1 学生

このアンケート結果から、選択科目で学生に選択

されるためには、内容がおもしろいことはもちろんだが、それを表現するようなシラバス、講義題目が必要であることがわかる。学生にとって興味深い講義題目やシラバスになるよう個々の教員が考慮すべきであろう。今回の改革で一般教育演習の受講者数は、17年度の約3,000名から2,000名に減少した。その一般教育演習を受講しなかった理由は、「魅力がない」あるいは「必要な単位数は取った」からであった。やはり、講義内容を魅力的にすることが必要である。一方で上限単位数との関係もあり、上限単位数内に必修科目が多いと必然的に選択できなくなる。一般教育演習を全員が受講すべき必須の教養科目と考えるならば、上限設定から除外する、必修科目とする等の履修促進策の検討が必要であろう。登録の際に選択の余地を広げるため、登録科目と「予備科目」を入れ替える制度が設定されたが、あまり利用はされていない。しかし、この種の余裕があることには意味があるので、利用は少なくとも残すべきであろう。

学生による授業アンケートのデータや授業での実感からおおよそ予想はしていたが、出席状況は良好である。昔の学生よりも出席に関してはまじめになったことがうかがわれる。ただし、大学構内での自習を促すためには図書の本棚の整備はもとより、空き教室をさらに自習に使いやすくする必要がある。

1日の平均自習時間は、約6割の学生が1～2時間である。上限設定があっても1日の講義数は2科目程度にはなるはずで、期待される1科目4時間の自習時間とはギャップが大きい。

1学期の成績評価には4割が不満がある。北海道大学では、成績評価基準の設定や成績分布の公表など、他大学に先鞭をつけた仕組みがあるにもかかわらずこの値である。さらに公平な評価になるような仕組みを検討する必要がある。

今のところ、GPAは積極的に利用されているわけではない。授業料免除の基準に使われる程度である。それでも8割の学生が気にしているところから、数字にしたことの重要性が確認された。ただし、数値のみが一人歩きしないよう配慮が必要であろう。

2学期の上限単位数については、少なすぎると答えた学生は1割にすぎない。2学期の登録では、大多数の選択科目に上限設定はそれほど強い影響を及ぼしてはいないようである。自由記述からは、1学期

表 2. 総回答数

主題別	総合	一般教育演習	共通	外国語	外国語演習	文系基礎	理系基礎	基礎(実験)	日本語	不明	合計
	33	19	63	12	30	14	3	72	17	3	269

表 3. 新入生の「学力の多様化」について(質問 1)

	n=241		n=33		n=17		n=61		n=11		n=24		n=14		n=3		n=59		n=14		n=3		
	合計	主題別 科目	総合 科目	一般教 育演習	共通 科目	外国語 科目	外国語 演習	文系基 礎科目	理系基 礎科目	基礎科 目(実験)	日本語 科目	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
1. 全体に学力の低下を感じた	41	15%	4	12%	3	16%	12	19%	2	17%	5	17%	2	14%	0	0%	8	11%	5	29%	0	0%	
2. 一部の学生に学力の低下を感じた	55	20%	6	18%	6	32%	8	13%	2	17%	8	27%	3	21%	2	67%	16	22%	3	18%	0	0%	
3. 昨年度までと特に変化はなかった	130	48%	21	64%	8	42%	35	56%	7	58%	10	33%	6	43%	1	33%	32	44%	6	35%	3	100%	
4. 一部の学生に学力の向上を感じた	11	4%	2	6%	0	0%	4	6%	0	0%	1	3%	2	14%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	
5. 全体に学力の向上を感じた	4	1%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	1	7%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	

表 4. 「単位の実質化」の取組み(全学教育科目規程第 4 条「1 単位の授業科目は 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし」参照)について(質問 2)

	n=265		n=33		n=19		n=63		n=11		n=30		n=13		n=3		n=71		n=17		n=3		
	合計	主題別 科目	総合 科目	一般教 育演習	共通 科目	外国語 科目	外国語 演習	文系基 礎科目	理系基 礎科目	基礎科 目(実験)	日本語 科目	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数
6. 「単位の実質化」に配慮した授業(予習・復習をうながす等の)を展開した	129	48%	14	42%	4	21%	34	54%	4	33%	18	60%	7	50%	2	67%	39	54%	5	29%	1	33%	
7. 「単位の実質化」について特に配慮はしなかった	136	51%	19	58%	15	79%	29	46%	7	58%	12	40%	6	43%	1	33%	32	44%	12	71%	2	67%	

表 5. 「単位の実質化」による学生の学習態度の変化 (受講態度, 質問回数や質問内容等) について (質問 3)

	n=257		n=32		n=15		n=60		n=12		n=29		n=14		n=3		n=70		n=17		n=3	
合計	主題別 科目		総合 科目		一般教 育演習		共通 科目		外国語 科目		外国語 演習		文系基 礎科目		理系基 礎科目		基礎科 目 (実験)		日本語 科目			
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
8. 全体に過年度生より 授業に熱心に取り組ん でいると感じた	22	8%	2	6%	2	11%	8	13%	0	0%	1	3%	2	14%	0	0%	6	8%	0	0%	1	33%
9. 一部の学生は過年度 生より授業に熱心に 取り組んでいると感じ た	41	15%	6	18%	2	11%	8	13%	3	25%	3	10%	3	21%	0	0%	13	18%	2	12%	1	33%
10. 昨年度までと特に 変化はなかった	148	55%	22	67%	11	58%	35	56%	8	67%	19	63%	9	64%	1	33%	33	46%	9	53%	1	33%
11. 全体に熱心に取り組 んでいると感じた (初 担当)	18	7%	0	0%	0	0%	4	6%	1	8%	4	13%	0	0%	1	33%	5	7%	3	18%	0	0%
12. 一部の学生は熱心に 取り組んでいると感じ た (初担当)	20	7%	0	0%	0	0%	3	5%	0	0%	2	7%	0	0%	1	33%	9	13%	3	8%	0	0%
13. 特に感じるものはな かった (初担当)	8	3%	2	6%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	6%	0	0%	0	0%

表 6. 学生の予習・復習の状況について (質問 4)

	n=258		n=33		n=18		n=60		n=12		n=29		n=14		n=3		n=67		n=17		n=3	
	合計		主題別 科目		総合科 目		一般教 育演習		共通科 目		外国語 科目		外国語 演習		文系基 礎科目		理系基 礎科目		基礎科 目 (実 験)		日本語 科目	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
14. 全体に過年度生より予習・復習に時間をかけていると感じた	15	6%	2	6%	0	0%	4	6%	0	0%	0	0%	2	14%	0	0%	6	8%	1	6%	0	0%
15. 一部の学生は過年度生より予習・復習に時間をかけていると感じた	33	12%	3	9%	0	0%	7	11%	2	17%	5	17%	3	21%	1	33%	12	17%	0	0%	0	0%
16. 特に変化はない	166	62%	26	79%	18	95%	40	63%	9	75%	18	60%	9	64%	0	0%	32	44%	11	65%	3	100%
17. 全体に予習・復習に時間をかけていると感じた (初担当)	8	3%	0	0%	0	0%	1	2%	0	0%	3	10%	0	0%	1	33%	2	3%	1	6%	0	0%
18. 一部の学生は予習・復習に時間をかけていると感じた (初担当)	23	9%	0	0%	0	0%	4	6%	1	8%	2	7%	0	0%	0	0%	12	17%	3	18%	0	0%
19. わからない (初担当)	13	5%	2	6%	0	0%	4	6%	0	0%	1	3%	0	0%	1	33%	3	4%	1	6%	0	0%

表 7 試験結果等 (期末試験・レポート等の成績) から見た全体的な学習成果について (質問 5)

	n=260		n=33		n=18		n=60		n=12		n=29		n=14		n=3		n=70		n=16		n=3	
	合計	主題別 科目	総合 科目	一般教 育演習	共通 科目	外国語 科目	外国語 演習	文系基 礎科目	理系基 礎科目	基礎科 目 (実験)	日本語 科目											
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
20. 全体に過年度生よりも成果が上がった	16	6%	2	6%	1	5%	6	10%	1	8%	0	0%	2	14%	0	0%	3	4%	1	6%	0	0%
21. 一部の学生は過年度生よりも成果が上がった	35	13%	6	18%	0	0%	6	10%	2	17%	5	17%	3	21%	0	0%	13	18%	0	0%	0	0%
22. 過年度生と大きな違いはなかった	140	52%	20	61%	14	74%	32	51%	5	42%	17	57%	9	64%	0	0%	32	44%	8	47%	3	100%
23. 過年度生よりも成果が上がらなかった	24	9%	3	9%	3	16%	7	11%	3	25%	1	3%	0	0%	1	33%	4	6%	2	12%	0	0%
24. 全体に成果が上がった (初担当)	13	5%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	2	7%	0	0%	1	33%	7	10%	1	6%	0	0%
25. 一部の学生は成果が上がった (初担当)	19	7%	2	6%	0	0%	4	6%	1	8%	1	3%	0	0%	1	33%	6	8%	3	18%	0	0%
26. 特に感じるものはなかった (初担当)	13	5%	0	0%	0	0%	3	5%	0	0%	3	10%	0	0%	0	0%	5	7%	1	6%	0	0%
27. 成果が上がらなかった (初担当)	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

表 8. 成績評価にあたり自分の担当した授業科目全体の前年度の GPA 値は意識しましたか?(質問 6)

	n=264		n=31		n=19		n=63		n=12		n=30		n=14		n=3		n=72		n=15		n=3	
	合計	主題別 科目	総合科 目	一般教 育演習	共通科 目	外国語 科目	外国語 演習	文系基 礎科目	理系基 礎科目	基礎科 目(実 験)	日本語 科目											
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
28. 意識して評価した	98	36%	8	24%	8	42%	16	25%	4	33%	8	27%	5	36%	1	33%	40	56%	6	35%	2	67%
29. 特に意識しなかつた	166	62%	23	70%	11	58%	47	75%	8	67%	22	73%	9	64%	2	67%	32	44%	9	53%	1	33%

表 9. 学生からも、教員からも、授業を一度受講してから抽選するようになってほしいとの要望があります。それを実施した場合、履修者の確定が現行より一週間程度遅れ、授業開始から 2 週間ほど後(概ね 2 回の授業終了後)になりますが、支障はありませんか?(一般教育演習、外国語演習等、抽選により履修許可を与える科目の担当の先生に大して)(質問 7)

	n=148		n=10		n=8		n=60		n=8		n=19		n=12		n=1		n=18		n=7		n=1	
	合計	主題別 科目	総合科 目	一般教 育演習	共通科 目	外国語 科目	外国語 演習	文系基 礎科目	理系基 礎科目	基礎科 目(実 験)	日本語 科目											
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
30. 履修者が決定しないまま 2 回の授業を行うのは、支障が多い	77	52%	3	30%	4	50%	33	52%	7	88%	11	58%	7	58%	1	100%	7	39%	4	57%	0	0%
31. 履修者が決定しないまま 2 回の授業を行うことに、特に支障はない	67	45%	7	70%	4	50%	27	43%	1	13%	8	42%	5	42%	0	0%	11	61%	3	43%	1	0%

表 10. (一般教育演習の担当の先生へ)([]内には数字を記してください。)一般教育演習全体の履修者の減少に伴い、履修者がごく少数の演習が増え、教育効果・効率の点で問題が指摘されています。抽選後に履修者が5名あるいは3名以下の演習については、開講中止としてはどうかとの意見もあります。これについてどう思われますか?(質問8)

	n=84		回答 32 の内訳 (回答者数 50 名)						
	人数	%	1 名	2 名	3 名	4 名	5 名	6～10 名	10～20 名
32. 履修者が [] 名以下の場合、開講中止とするほうがよい	52	60%	1	2	6	2	30	8	1
33. たとえ 1 名でも希望者がいるなら授業を行うべきと考える	23	26%							
34. どちらとも言えない	9	10%							

の上限単位数は少ないと感じている学生が多いが、2 学期はそうでもないようである。魅力的な選択科目が 2 学期に少ないという意見もある。魅力のある選択科目を 1 年にわたって平均して開講するなどの工夫が必要であろう。

5.2 教員

新入生の学力については教員の 35% が何らかの学力低下を感じている。実際には新入生には浪人生が含まれるために、今年度入学者のうち新カリキュラムで教育を受けた者はおよそ半分である。来年度はほぼ全員が新カリキュラムを受けた学生になるため、この比率はさらに上昇することが推測される。実験担当の教員が学生の能力低下を感じている割合が多いことは、新しい課題である。新カリキュラムを考慮した学習プログラムが必要であろう。

およそ半分の教員は「単位の実質化」に配慮し予習復習が必要な授業を展開しており、これが学生の自習時間の上昇を促したことは十分考えられるが、1 日平均 2 時間程度という学生のアンケート結果から見ると、まだ不十分なのかもしれない。

全体の 3 割に及ぶ教員が、今年の学生は熱心であ

ると考えている。今回の教育改革の成果がある程度現れているものと思われる。ただし、「3 割」が良好な値であるか否かは予断を許さない。さらなる努力が必要であろう。

前年度の GPA 値を意識して成績をつけた教員は 4 割に達していない。成績の評価基準の公平さから考えると、さらなる向上が望まれる。

一般教育演習について、学生が授業の内容を見てから履修を決められるような制度についての賛否は、ほぼ同数である。学生に実際の授業を見てもらいたいと思う反面、履修者が確定されない状態で講義を 2 回も続けることに対する異論が多いことも推察できる。シラバスの内容を高めるなどの施策が必要であろう。欧米のシラバスは 15 回分の講義内容が綿密に記載されている。少人数教育が効果的なこととは言うまでもないが、教育効果や、教員数が毎年減りつづけることを考えると、効果的で効率的な教育の仕組みが必要であろう。

6. まとめ

2006 年度入学者に合わせたカリキュラム改革は

多くの大学で行われたが、その影響について調査している大学は少ない。企画、実行、評価は教育改革の主要ループであり、今後も教育改革の効果や影響を確認するためには、このような調査が遂行される必要がある。また、類似の調査が他大学でも行われ、比較できるようになることが望まれる。

今回の教育改革で最も危惧されたことは、上限設定による学生の学習状況が思わぬ方向に行くことであった。幸いなことに、今回の調査によれば、学生の学習態度は良くなり、自習時間も増えつつあるように思われる。

GPAの全学平均値は、17年度1学期：2.23から

18年度1学期：2.35に上昇した。学期末試験の成績（素点）では、昨年よりも平均値で10ポイント上昇した科目もあると聞く。大学でも予習復習することが当然と考える空気が生まれつつある。この面では、改革されたカリキュラムの維持発展が望まれる。

ただし、GPA値の利用方法や、一般教育演習の全学教育でのあり方、成績評価の適正化など、これからは試行を重ねる必要のある改革事項も散見される。本調査の結果や、個別のコメントに留意して新たな改革に結びつけるよう期待したい。

資料 1

コアカリキュラム・GPA・上限設定・WEB 登録についてのアンケート

北海道大学の教育内容とシステムは、平成 15 年に「進化するコアカリキュラム」として「特色ある大学教育支援プログラム」に選定され、わが国の大学における教養教育の一つのモデルとなりました。

今年度からは、単位の実質化を図るため、履修登録単位の上限設定、GPA の本格利用を実施しました。

このアンケート調査は、学部 1 年次生全員（約 2,600 名）を対象として、これらのシステムの導入の影響を調べ、その結果にもとづいてカリキュラムおよび教育方法の改善策を検討するために行います。お忙しいことと思いますが、後輩たちがより良い教育を受けられるよう、調査にご協力をお願いします。

北海道大学 高等教育機能開発総合センター コアカリキュラム調査検討グループ

1. 所属する学部（該当の□にチェック）

- 1 文 2 教育 3 法 4 経済 5 理 6 医
 7 薬 8 歯 9 工 10 農 11 獣医 12 水産

2. 学科等の別があれば、その名称を記入して下さい。[]

○履修科目・GPA・履修登録上限設定について（該当の□にチェック）

3. 選択科目を決定した理由は？（複数回答可）

- 1 授業科目・講義科目名を見て 2 シラバスを見て
 3 友人と相談して 4 先輩からの情報をもとに
 5 専門に関係するから 6 専門に関係ないが、面白そうだから

4. （一般教育演習を受講しなかった方へ）受講しなかった理由は？（複数回答可）

- 1 抽選に外れたから 2 科目に魅力がなかったから
 3 必要な単位数はすでにとったから
 4 上限設定のため仕方なしにあきらめた
 5 上限設定外の科目で進級・卒業要件に含まれるなら受講したい

5. 一般教育演習以外で、上限設定のため仕方なしに履修をあきらめた科目はありますか？

- 1 なかった 2 あった [例:]

6. 予備科目を 5 月 / 11 月に他の登録科目と入替えできる制度を利用しましたか？

- 1 制度を知らなかった 2 知っていて利用しなかった
 3 利用した

7. 第 1 学期の授業内容に満足していますか？

- 1 不満 2 やや不満 3 満足 4 たいへん満足

8. 授業のおよその出席率は？

- 1 40% 未満 2 60% 3 80% 4 100%

9. 平日 1 日あたりのおよその自習時間は？

- 1 30 分未満 2 1 時間 3 2 時間 4 3 時間 5 4 時間以上

10. 平日の自習の場所は主にどこでしたか？（複数回答可）

- 1 図書館 2 空き教室 3 自宅（下宿） 4 その他 []

11. 履修科目の成績評価の結果に満足していますか？

- 1 不満 2 やや不満 3 満足 4 たいへん満足

12. 登録確定後に履修放棄して「不可」評価となった科目がありますか？

- 1 なかった 2 [科目] あった

13. GPA の高・低が気になりますか？

- 1 気にしない 2 気にしている

14. 第 2 学期の履修登録の上限設定単立数（特例措置等を含む）は十分でしたか？

- 1 少なすぎる 2 ちょうどよい 3 多すぎる（余裕があった）

15. コアカリキュラム・GPA・上限設定・WEB 登録についてご意見をお聞かせください。
 （裏面に）

資料 2

平成 18 年度からの新教育課程・「単位の実質化」に関するアンケート

各質問の該当項目の□にチェックをしてください。

本調査は、本年度第一学期開講の全学教育科目担当の専任教員にのみ送付しています。

一つの科目を複数の教員で担当している場合は科目の代表者のご意見をお聞かせください。

一人で2科目以上担当されている場合は、それぞれの科目についてご回答ください。

各質問に対しての回答はいずれか一つとしてください。(複数回答不可)

担当科目：

71. 主題別科目 72. 総合科目 73. 一般教育演習 74. 共通科目
 75. 外国語科目 76. 外国語演習 77. 文系基礎科目 78. 理系基礎科目
 79. 基礎科目 (実験) 80. 日本語科目

本学では平成 18 年度から「学生の学力の多様化」を考慮して「単位の实質化」の取組みを進めています。

質問 1. 新入生の「学力の多様化」について

1. 全体に学力の低下を感じた 4. 一部の学生に学力の向上を感じた
 2. 一部の学生に学力の低下を感じた 5. 全体に学力の向上を感じた
 3. 昨年度までと特に変化はなかった

質問 2. 「単位の实質化」の取組み (全学教育科目規程第 4 条「1 単位の授業科目は 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし」参照) について

6. 「単位の实質化」に配慮した授業 (予習・復習をうながす等の) を展開した
 《例えばどんな配慮ですか:》
 7. 単位の实質化」について特に配慮はしなかった

質問 3. 「単位の实質化」による学生の学習態度の変化 (受講態度, 質問回数や質問内容等) について (今学期初めて全学教育を担当された方は「□」で回答願います。)

8. 全体に過年度生より授業に熱心に取組んでいると感じた
 9. 一部の学生は過年度生より授業に熱心に取組んでいると感じた
 10. 昨年度までと特に変化はなかった
 11. 全体に熱心に取組んでいると感じた
 12. 一部の学生は熱心に取組んでいると感じた
 13. 特に感じるものはなかった

質問 4. 学生の予習・復習の状況について (今学期初めて全学教育を担当された方は「□」で回答願います。)

14. 全体に過年度生より予習・復習に時間をかけていると感じた
 15. 一部の学生は過年度生より予習・復習に時間をかけていると感じた
 16. 特に変化はない
 17. 全体に予習・復習に時間をかけていると感じた
 18. 一部の学生は予習・復習に時間をかけていると感じた
 19. わからない

質問 5. 試験結果等（期末試験・レポート等の成績）から見た全体的な学習成果について

（※今学期初めて全学教育を担当された方は [] で回答願います。）

（GPA の全学平均値は 17 年度 1 学期の 2.23 から 18 年度は 2.35 に向上しました。）

- 20. 全体に過年度生よりも成果が上がった
- 21. 一部の学生は過年度生よりも成果が上がった
- 22. 過年度生と大きな違いはなかった
- 23. 過年度生よりも成果が上がらなかった
- 24. 全体に成果が上がった
- 25. 一部の学生は成果が上がった
- 26. 特に感じるものはなかった
- 27. 成果が上がらなかった

質問 6. 成績評価にあたり、自分の担当した授業科目全体の前年度の GPA 値は意識しましたか？

- 28. 意識して評価した
- 29. 特に意識しなかった

質問 7. （一般教育演習，外国語演習等，抽選により履修許可を与える科目の担当の先生へ）
 学生からも，教員からも，授業を一度受講してから抽選するようにしてほしいとの要望があります。それを実施した場合，履修者の確定が現行より 1 週間程度遅れ，授業開始から 2 週間ほど後（概ね 2 回の授業終了後）になりますが，支障はありませんか？

- 30. 履修者が決定しないまま 2 回の授業を行うのは，支障が多い
- 31. 履修者が決定しないまま 2 回の授業を行うことに，特に支障はない

質問 8. （一般教育演習の担当の先生へ）（[] 内には数字を記してください。）

一般教育演習全体の履修者の減少に伴い，履修者がごく少数の演習が増え，教育効果・効率の点で問題が指摘されています。抽選後に履修者が 5 名あるいは 3 名以下の演習については，開講中止としてはどうかとの意見もあります。これについてどう思われますか？

- 32. 履修者が A[] 名以下の場合，開講中止とするほうがよい
- 33. たとえ 1 名でも希望者がいるなら授業を行うべきと考える
- 34. どちらとも言えない

今年度ご担当の一般教育演習の履修者は何名でしたか？ B[] 名

質問 9. 新教育課程，「単位の実質化」についてご自由にご意見をお聞かせください。

（別紙を追加しても結構です。）